教育研究計画

研究主題 「基礎学力を身につけ、かつ主体的に学ぶ生徒の育成」 ~ 基礎学力の定着と、学習マネジメント力を高める指導方法の工夫~







- ◎令和5年度キャリア教育実践優良校
- 〇県教委学力向上だよりで紹介
- 〇町広報誌に学力向上の取組で紹介
- ① 主題設定の理由 ※「フォーサイト手帳」は市販の生徒向けビジネス手帳

令和5年度キャリア教育実践優良校として文部科学大臣表彰を受賞。令和7年度も基礎学力の定着と学習マネジメント力の向上に引き続き取り組む。これまでの研究内容の要点は以下の4点。

- ① 「授業づくりのステップ1・2・3」の「ステップ2・3」を意識した授業実践。
- ② 「フォーサイト手帳※」使用により個人内でPlan-Do-See サイクルを定着。 家庭学習の活性化、家庭学習に確実に取り組ませる。
- ③ タブレットPC (ドリル教材) を活用した生徒会活動主体の「月1満点テスト」の実施。
- ④ キャリアワークシート「夢をかなえる地図」の作成。 テスト勉強期間(テスト前2週間)「夢をかなえる勉強期間」とし、目標に「向かう力」「見つめる力」「やり抜く力」の向上。

これらの取組を通して、次の効果をねらった。※ナビゲーションシートとは試験範囲と学習の手引き

- 各教科「単元計画・ふりかえり」を作成。生徒は学んだことを自分自身のことばでまとめ、ふりかえることによって学習内容の習得を図る。
- ② 「フォーサイト手帳」記入の継続指導で「目標設定」「計画」「規則正しい生活」「実行する と決めたことに取り組む力」を育てる。
- ❸ 生徒会との協働やICTの利活用によって、基礎学力の定着を目指す。
- ④ 「ナビゲーションシート※」と「フォーサイト手帳」を連動し、学習計画を立て実行することにより「やり抜く力(ルーティン力・タイムマネジメント力)」を育てる。

取組の結果、以下のような成果と課題が見られた。

◆ 成果

- ア 「基礎学力の定着」のために
 - ・ 指導案にタブレットアイコン(圖)を入れICT機器を利活用した学習活動を実践した。
 - 「月一満点テスト」は、生徒会学習部の体制が整い、主体的に運営に当たることができた。
 - ・ 「ナビゲーションシート」はテスト勉強で取り組む内容が明確で定着した。
- イ 「学習マネジメント力」の向上のために
 - 「ナビゲーションシート」と「フォーサイト手帳」を連動することで、「やり抜く力」(ルーティンカ・タイムマネジメントカ)の育成ができた。
 - 「フォーサイト手帳」記入の継続指導で、生活リズムが整ってきている。

◆ 課題

- ア 「基礎学力の定着」のために
 - ・ 授業での「ふりかえり」段階で生徒の「ふりかえらせ方」に研究の余地がある。
 - ・ 家庭学習時間の確保は継続した課題である。生徒へのいっそうの啓発が必要である。
- イ 「学習マネジメント力」の向上のために
 - 「フォーサイト手帳」記入の継続指導は点検と声掛けによる根気強さが必要である。
 - ・ 「ナビゲーションシート」と「フォーサイト手帳」の連動は個別の指導が必要である。

ウ 小中連携について

- ・ 1月の小中合同研修会で「学校の当たり前」を見直す視点を共有した。
- ・ 気軽に相互授業参観、情報交換ができるよう、今後も進めていく必要がある。
- ② 令和7年度研究の重点取組

ア 「基礎学力の定着」のために

○ 「ステップ2・3」を意識した授業実践。(継続)

生徒に「何を理解しているのか(知識)・何ができるのか(技能)」を押さえて学習活動に入る。「単元計画表(実行表)」を各教科・教員で作成し、生徒に示して授業を行う。

○ 家庭学習の啓発。(継続)

以下の時間を目安に、帰りの会等でフォーサイト手帳を利用して計画を立てさせる。

【1週間当たりの総時間数】

	1年			2年		3年					
1 学期	2 学期	3 学期	1 学期	2 学期	3 学期	1 学期	2 学期	3 学期			
8 hr 以上	9 hr 以上	10hr 以上	11hr 以上	12hr 以上	13hr 以上	14hr 以上	15hr 以上	16hr 以上			

○ 生徒会・学習部による「月一満点テスト」を実施。(継続)

イ 「学習マネジメント力」の向上のために

○ 「夢をかなえる勉強期間」の実施。 (継続)

「夢に近づく第一歩**『り**」「夢をかなえる地図」などを使用し、テスト勉強に家族を関わらせ、コメントをもらうなど支援を依頼する。「向かう力」「やり抜く力」「見つめる力」の向上。

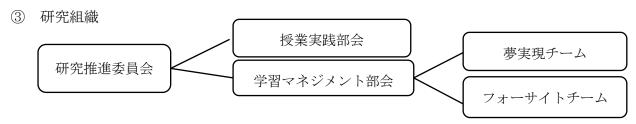
○ フォーサイト手帳の利用。 (継続)

ウ 小学校との連携(継続)

エ 教員の指導力向上のために(新規)

○ ワークショップ型職員研修の実施。

教員は研修を通して資質・能力が高まるため、基盤となる基本的な研修方法を研修する。



							令	和7年度 研	·究推進年間計	画 吉野ヶ島	L 町立東	育	長中	学校					
			校内研 究会			各部		(各学年) の取組			研究内容								
月		推進委 員会	・全体研究 ・各部研		過程 PDC(A)		議題	授業実践部会	学習マネジメント部会										
			究・その他						夢実現チーム	フォーサイトチーム	NRT、全 国、県	QU	, ET	研修方法	研究 授業	学活	総合	満点 T	主な学校行 事
4	4 1 4/3	4/8火	4/11金	理	実	【 検	1	研究内容の概要と把握…これまでとこれから、年間計画			NRT	QU5/9							入学式 家庭訪問
7	4 1 4/0%		+/ 11 <u>3/</u>	理論】	践]	証	2	研究組織編制、ワークショップ研修(6回分)の担当決め			4/8,9	結	J				今 年 度 –		
5	5 2 4/30水	4/307k	5/77k	理論			3	授業研究のあり	方		育相	果を把握					計 画		PTA総会 教育相談 体育大会
Ū		0, 77,	確立		検 証	4	4 学カテスト等約	5果の分析		談・	Ļ					に 基づ			
	6 3 6/1		6/17火				5	取組の進捗状況	?	· 各 · 教 · 科	よりよ					く 実		1, 2年 校外学習	
6		6/13金					6	月一満点テスト計画			の 授	ま団					践。教科	計画	地区総体 県総体
							7	ワークショップ 1	「アイスブレイク	」(効果的運営)	業活	作り		学級づ くり			科 等 で		
	7 4 7/		7/16水			-	8	取組の進捗状況	ł		用	を進め					組め		吹奏コン
7		7/14月					9	学習アンケート	·分析報告 1			る	ET				な い 課	国	
							10	ワークショップ	^ያ 2「KJ法」(分	類、分析)			結果を	課題解決			題解		
	8 5 7,		8/4月			検証	11	取組の進捗状況	2				を把握・				決型の		
8		7/30水			諸		12	1 学期の振り返	•		個別				実践				
					検査		13	ワークショップ3「ポスタワ	フーセッション」(参加	n型研修の運営)	全国・		の 学 び	プレゼ ンカ		Ш	で、 主		0.5
	9 6	9/5金	9/10水		結果の分析		14	取組の進捗状況	?				を考察				体的に		3年 修学旅行
9							15	調査結果分析			県 の結果 分析						学ぶ	社	2年 職場体験
					と 改		16	ワークショップ 4	「輪読法」(知識	・情報の習得)				知識注入		Ш	学 び –		± 11. 2% ±
10	10 • 7 11	10/6月	10/8水	理論研究の深化	善策の策定		17	取組の進捗状況	2		教育						の土台	数	文化発表 会
							18	授業研究のあり方	ī 2 (「ふりかえら [、]	せ方」の研究)	相 談	QU11	/10				作り	理	生徒会長 選挙
							19	ワークショップ5「	マンダラート」(思考	拡散・焦点)	各 — 教 — 科			拡散· 焦点			_		
	12 8	12/8月	12/10水				20	取組の進捗状況	?		の	目との変							
12						検 証	21	学習アンケート	分析報告 2		授 業 活	化把握						英	
						22	2学期の振り返	らり (部会)		用	予後								
							23	ワークショップ	6「特別回」		_	の対応	学						7 =+
1	1 9 2	2/2月				1.	24	取組の進捗状況	?			70	学びを深化						入試
			2/4水			検 証	25	ET結果の分析と	T結果の分析と考察			化							
						ま	26	講師招聘「ET」	(櫻井茂男先生)	予定			1					_	入試
3	3 10 3	3/9月	3/11水			ර හි	27	研究のまとめ											卒業式
		, ,				次年度	28	次年度への取組	計画							7	\ \	7	修了式